

音楽科学習指導案

日 時 平成27年6月4日(木) 公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年B組39名
会 場 音楽室
授業者 赤坂裕子

1 題材名

「思いや意図をもって音楽表現しよう ～日本の歌を通して～」
『花の街』(江間章子 作詞 團伊玖磨 作曲)

2 題材について

(1) 生徒観

生徒は、音楽の学習におおむね真面目に取り組もうとしている。

これまで、表現や鑑賞などの様々な学習活動を通して、一人ひとりに成功体験や感動体験を味わわせ、より主体的に音楽にかかわろうとする態度を育むことを大切に指導を行ってきた。また、音楽科における思考力・判断力・表現力が育まれる授業を展開するように意識的に取り組んできた。しかし、楽曲を聴いて、歌詞にふさわしい音楽表現を自ら考えて工夫するという点において、まだ十分にできる状況にはない。加えて、曲中で、自分が気に入ったところや美しいと思ったところなどを感じた時、なぜそこで自分の感情が動かされたのかを、音楽の言葉を使って表現することには課題がある。

このような生徒の実態を踏まえ、本題材では、以下の2点を学習内容とし、課題に対してどのように感じ、どのように音楽表現を工夫したのか、その学習過程に生徒一人ひとりが主体的にかかわりをもつようにさせたい。

- ① 楽曲のよさを言葉で表現し合い、自分や他者の楽曲に対する様々な価値に触れ、改めて自分の中の価値を再構築させること。
- ② 音楽を形づくっている要素(音色、リズム、旋律、強弱、形式)と、楽曲に対する自分の思いや意図をかかわらせ、音楽表現を工夫すること。

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領【第学年及び第3学年】A表現の(1)歌唱の活動を通して指導する事項であるア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌うこと。」と、共通事項「音色、リズム、旋律、強弱、形式」にかかわる学習を中心としている。

本題材で扱う『花の街』は、休符の効果的な使い方や、旋律の反復によって生まれる緊張感など、音楽表現を工夫するための手掛かりとなる要素が盛り込まれた魅力的な楽曲である。

リズム重視のポピュラー音楽が好まれる傾向にある近年、共通教材に代表される長年歌い継がれてきた日本の歌を聴いたり歌ったりする機会が極端に減っている。本校においても、音楽の授業の中で、共通教材とされる日本の歌を学習してみると、「聴いたことがない。」という生徒が非常に多く、驚かされることがある。しかし、学習を進めていくと、「心が落ち着く、情景がイメージしやすい。」など、日本の歌のよさや美しさを改めて意識する生徒も多い。日本の歌にじっくりと向き合い、深く味わうことにより、日本人の心を実感したり、日本の文化を尊重する態度が養われたりすることが期待できる。また、生徒自身が楽

曲に向き合い、自分の思いをふくらませ、音楽表現のイメージを持つことは、生涯にわたって音楽を愛好しようとする態度を養うことにつながる学習である。さらに、自分の思いや意図を他者に伝えて交流することは、多様な価値観に触れることであり、この経験の積み重ねが豊かな感性を育むことにつながっていくものとする。

(3) 音楽科における学びの本質について

学習指導要領において、音楽科の目標は、表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」と示されている。中でも、「音楽活動の基礎的な能力」について、学習指導要領では、「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること」が、すべての音楽活動の支えとなるもっとも基礎的な能力と示している。

これらのことを受けて、本校音楽科では、学びの本質を、音や音楽からよさや美しさを感じ取ること（知覚・感受）、また、感じ取ったことを音楽表現することにあると捉えた。生徒自身が、学びの本質に迫るためには、音や音楽のよさや美しさを感じ取る豊かな感性や、音楽活動への主体的なかわりが重要である。そして、学びの本質に迫るための力を身に付けるためには、楽曲から感じ取ったことを具体的に言葉で表現し、他者と交流することで、自分の価値観を深化させたり広げたりする経験を積む学習は、欠かすことができない。また、それを音や音楽で表現する力を磨く必要がある。本題材においては、このように、感じ取ったことを他者と交流し合う場面を設定し、生徒が主体的に音楽活動にかかわり、学びの本質に迫るための学び方を身につけることにつながることを期待したい。

3 題材の指導目標および評価規準

(1) 指導目標

- A 歌詞の内容（歌詞が表す情景や心情）や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。
- B 音楽を形づくっている要素（音色、リズム、旋律、強弱、形式など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、歌詞の内容や曲想を感じ取り、どのように歌うかについて、思いや意図をもつ。
- C 歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法など）を身につける。

(2) 題材の評価規準

＜観点1＞ 音楽への関心・意欲・態度	＜観点2＞ 音楽表現の創意工夫	＜観点3＞ 音楽表現の技能
・歌詞の内容（歌詞が表す情景や心情）や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組んでいる。	・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、旋律、強弱、形式など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、歌詞の内容や曲想を感じ取り、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法など）を身につけて歌っている。

	○思いや意図をもち、音楽表現しながら1曲通して歌う。 ○多様な音楽表現があることを知るために、『花の街』のCDを鑑賞する。 ○学習を振り返り、何を手掛かりに、どのような音楽表現を工夫したのか、ワークシートにまとめる。 →ワークシート	
3	○独唱発表会 *一人ひとりが、題材を通して学んだことを生かし、独唱の発表会を行う。	<観点2> <観点3>

5 本時について

(1) 主題

思いや意図をもって、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫しよう。

(2) 指導目標

思いや意図をもたせ、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫する。

(3) 評価規準

観 点	「おおむね満足できる」状況 (B) と判断するポイント
<観点2>	リズム、旋律、強弱などの要素と曲想とのかかわりを感じ取りながら、思いや意図をもって楽曲にふさわしい音楽表現を工夫しようとしている。
<観点3>	曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能(言葉の発音、発声、呼吸法)を身につけて歌っている。

(4) 本時の構想

本時は、歌唱の共通教材『花の街』について、思いや意図をもって音楽表現を工夫する授業である。

1時間目で、生徒は『花の街』を歌えるようにして、楽曲の雰囲気をつかみ、どのような歌で、どのように歌いたいかについて、漠然とではあるがイメージを持たせた。さらに、曲の背景を学習し、平和を願う復興ソングであることに気付かせる。時代を超えて『花の街』が歌い継がれていることに対する思いや自分たちの置かれている状況と重なり、生徒にとってより身近な楽曲となるであろう。

本時は、学習課題を「思いや意図をもって、『花の街』を豊かに表現しよう」と設定する。楽曲中に、何度も用いられる休符や、休符と旋律の反復などに気付かせ、楽曲の中で休符がどのような役割(効果)を果たしているのか感じ取らせたい。感じ取ったことは、全体で交流を行う。多様な意見を聞くことにより、自分の音楽に対する価値を深化させたり、価値を再構築させたりすることが可能になる。また、ここで捉えた音楽に対する価値が、そのあとの音楽表現の工夫につながるため、一人ひとりにしっかり思いをもたせたい。

音楽表現の工夫の場面では、一人ひとりが声を出して何度もフレーズを歌うことで、自分の思いと音楽表現を確かめ、それを発表できるようにさせたい。

次に、楽曲の中で気付いた、休符と旋律の反復について取り上げる。具体的には、休符を用いることや音高を変えて同じ旋律が反復されることによって生まれる緊張感やエネルギーの高まりを感じ取らせたい。また、これらを、どのように音楽表現したらよいか、生徒が試行錯誤しながら、思いや意図をもとに、自分なりの音楽表現を工夫させたい。

最後は、楽曲全体を通して歌い、一人ひとりに学習を振り返らせたい。また、多様な音楽表現があることを示すために、歌い手の異なる『花の街』を鑑賞する予定である。

学習を通して気付いたことや学んだこと、考えたことなどをワークシートにまとめさせ、

自分自身の学習を振り返ることでメタ認知を図る機会としたい。

6 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間 (分)	学びの本質とのかかわり
導入	<p>1 『花の街』を歌唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りをする。 <p><作詞者や作曲者の願い，平和を願う復興ソング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思いや意図をもって、『花の街』を豊かに表現しよう</p> </div>		
展開	<p>2 課題に迫る。</p> <p>【歌ったり楽譜を見たりして，気づいたことや，楽曲の特徴を発表する。】</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレーズが休符で始まっている。 ・旋律が繰り返されるところがある。 </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>特別に感じたところを，さらに詳しくみていく。 ⇒思いや意図をもつこと。音楽表現を工夫すること。</p> </div> <p>【なぜ，作曲者は休符を用いたのかを考える。】 *片方の耳をふさいで歌いながら（自分の声を聴く），休符がある時とない時で，何がどう違うのか，考える。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌い手の心がその一瞬にこめられている。 ・次に来る歌詞を強調したい。 </div> <p style="text-align: center;">⇒ 意見交流</p> <p>【自分の思いを音楽表現につなげる。】</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[予想される生徒の反応]</p> <p>「なないろ」の「な」の音色、発音、ニュアンスを考えながら試行錯誤して、音楽表現を模索する。</p> </div> <p>【なぜ，作曲者は旋律を反復させたのかを考える。】</p>	6	<p>■『花の街』の楽曲の中に見られる休符や旋律の反復が楽曲の中でもたらず効果について解釈を深める。 (知覚・感受)</p> <p>■自分と他者の感じ取ったことの共通点や異なる点を知り，音楽に対する価値を深化，再構築させる。 (思考力・判断力)</p>

	<p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じ歌詞が2回続いたから、旋律も同じでよい。 • 旋律は同じだけど、音の高さが違う？ • 2回繰り返して言葉を強調した。 • 音がだんだん高くなることで、次の歌詞「かけていったよ」に向かって緊張感が増す。音量も大きくなる。エネルギーがたまる。 <p style="text-align: center;">  </p> <p>【自分の思いを音楽表現につなげる。】</p> <p>[予想される生徒の反応]</p> <p>「わになって」から「かけていったよ」までを音色、強弱、発音、ニュアンスを考えながら試行錯誤して、音楽表現を模索する。</p> <p>【思いを感じながら、楽曲全体を歌う。】</p> <p>3 『花の街』のCDを聴き、多様な音楽表現があることを理解する。</p>	36	<p>■休符や旋律の反復の効果に対する解釈をもとに、『花の街』にふさわしい音楽表現を工夫する。 (思考・判断・表現力)</p>
終末	<p>4 授業を振り返り、何を手掛かりにして自分の思いや意図をもったのか、また、それをどのように音楽表現したのか、ワークシートに記入し、それぞれの思いを大切にしながら全員で歌う。</p>	8	<p>■学習を振り返り、学びのメタ認知を図る。</p>